○４月「発達障害啓発週間（４／２～４／８）」「世界自閉症啓発デー（４／２）」

十島村教育委員会だより　令和５年３月号

宝わくわくカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

写真：ナベダオの山ザクラ
撮影者 諏訪之瀬島中 井之口先生

「１５歳の島立ち　会者定離の常」

十島村教育長　木戸　浩

中学校３年生14人と、山海留学生６人が島を離れます。いわゆる「島立ち」です。中学校３年生にとっては親元を離れ、一人で生活していくことになります。不安で押しつぶされそうになる思いを胸に納め、また期待に胸を躍らせて島を離れていくことでしょう。先生方も第二の古里であるそれぞれの島から次の任地に向かわれます。出会いがあれば、当然別れはつきものです。涙の別れはそれだけたくさんの思い出が詰まっていたからだと思います。島での思い出は子どもたちにとっても、そして先生たちにとってもかけがえのない一生の宝物として、いつまでも心に残っていることでしょう。

新たな出会いで、これからまた一人一人の人生を輝かせてください。皆さんのこれからを応援しています。

◇「ハチドリのひとしずく」◇

～どう受け止め、どう行動しますか？～

「ハチドリのひとしずく」という物語です。

ハチドリのひとしずく

森が燃えていました。
森の生きものたちは　われ先にと　逃げて　いきました。
でも　クリキンディーという名のハチドリだけは
いったりきたりくちばしで水のしずくを一滴ずつ
運んでは火の上に落としていきます。
動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ。」といって笑います。
クリキンディーは　こう答えました。
「私は、私にできることをしているだけ。」

今から１５～１６年ほど前だったと思います。南米アンデス地方に伝わるたった１７行のこの短い物語が、世界中の多くの人々の関心を集めたのです。

この物語の根底にあるものを考えたり、物語の続きを書いたりすることで、深い意味を理解しようという活動もありました。

平凡で、平易な文章なのに、どうしてこの物語が多くの人々の心を動かし、なぜ、多くの感動を与えたのでしょうか。この物語には、人としての生き方や在り方に関する時空を超えた普遍的な価値が内包されているように感じます。

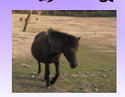
人間の価値は、小さな一歩でも、まず、自分にできることを確実に踏み出すことであるということや、現状を変えるために何か行動を起こすことの大切さを教えてくれているような気がします。　子どもたちをめぐる「今」に目を転じてみると、いくら指導したつもりでも学力が上がらないもどかしい現実。いじめや不登校等々、どれ一つ取ってもいつ終わるともしれない取組が必要なものばかりです。しかし、だからといって、解決のための地道な取組を止めるわけにはいきません。

学年末の今こそ、目の前の子どもたちの現実から目を背けることなく、当事者への対応が弱腰になることなく、決して諦めずに「ハチドリのひとしずく」に学ぶ行動を起こすことが大事です。もちろん、子どもたち自身もそうです。自分の今の現状から少しでも前へ進めるように、やれることをやれる範囲でやれるだけ、確実に一つ一つ実行し、暖かな春を迎えてほしいと期待しています。

南日本新聞
「子供のうた」掲載作品
令和四年十月十三日

台風がやってきたよ
とても風が強いよ
台風は物を飛ばすよ
風も強いよ
台風もいいところあるよ
サンゴ礁にありがたいよ
台風だけができるよ
海の水を一気にまぜるよ

（中之島小学校五年
小原澤　洸己）



南日本新聞
「子供のうた」掲載作品
令和四年十一月三日

うんどうかい
はしって
おどって
おうえんして
また　はしって
おどって
おうえんして
うんどうかいって
いそがしい
でも　たのしい
がんばるぞ

（宝島小学校一年
まつもと　しおん）

【新聞に投稿】

令和４年12月24日 南日本新聞「若い目」掲載

「楽しい　文かさい」

宝島小学校二年　戸﨑　碧海

「宝のゆめ」文かさいがありました。宝島小・中学校だけでなく、島の人たちもさんかする文かさいで、ぶたいはっぴょうと、てんじがあります。

わたしのクラスは一・二年あわせて三人です。たくさん話し合って「北風と太ようとたび人」というげきを作って、はっぴょうすることにしました。わたしは太ようのやくでした。せりふもおぼえるのはとても大へんで、学校でも家でも何回もれんしゅうしました。

げきのさいごに歌うきょくも、リズムと音に気をつけて、たくさんれんしゅうしました。れんしゅうは大へんだったけど、できるようになっていくのは楽しかったです。

本番はたくさんの人が来ていてどきどきしました。でも、自分のせりふを大きな声で、はっきはきといったり、元気よく歌ったりできました。

みんなと、え顔ではっぴょうすることができてれしかったです。

家に帰るとお母さんが「上手だったね。」と言ってくれました。とても楽しい文かさいになりました。

令和４年１１月４日 南日本新聞「若い目」掲載

「一緒にがんばった」

口之島中一年　肥後　海翔

トカラ列島島めぐりマラソン大会が三年ぶりにありました。フェリーを乗り降りして７島を走る大会です。ぼくは口之島コース五キロに参加しました。「疲れるだけだし、はしりたくないな」という気持ちのまま当日を迎えました。スタートして少したったとき「何年生？一緒にがんばろうね」と大人のランナーが声をかけてくれました。折り返し地点を過ぎたところで、また誰かが「がんばれ」と言ってくれました。牛の牧場のところでつらくてあきらめようとしたとき、「最後までがんばれ」という応援が聞こえました。その声でラストスパートしゴールできました。「完走だ、やった」という気持ちでいっぱいでした。

タイムは二十七分十六秒。ここまでやれたのは一緒に走り、声をかけてくれた参加者、地域の人たちのおかげだと思います。苦手だったマラソンが大好きになりました。来年も参加したいです。

令和４年１０月１５日 南日本新聞「若い目」掲載

「毎日が輝いて」

悪石島三年　田口　琢真

僕は今年の春から山海留学生として、悪石島寮に入りました。これまで住んでいた東京ではできないような経験をして、充実した毎日を送っています。

二学期になり、悪石島での最初で最後の運動会がやってきました。僕は最高学年ということもあり、応援団長になりました。

これまで自分が中心となって何かをすることはありませんでした。初めての団長を経験して、まとめることのむずかしさやリーダーとしての責任に気づかされました。団長にふさわしい人になれるように努力しました。

島に来てからは、毎日が輝いて見えます。いつも思うのは、ここでの日々は一生の思い出になるだろうということです。卒業して島から離れても、絶対に忘れないと思います。　残りの日々も、思い出にできるように努力していきたいです。

十島村で学ぶ

【初めての修学旅行】

小宝島小学校５年　岩下　明日香

今年度は、４年生の時から楽しみにしていた修学旅行がありました。出発するまでは楽しみでしたが、船に乗るときに「みんなと仲良くできるかな。」と不安になってしまいました。船に乗ると、宝島の５・６年生が私たちに気づいて、起きてくれました。どうやって話し始めたのか覚えていませんがいつの間にか話し始めていました。口之島で女子全員そろうと自然と自己紹介が始まりました。そして、持ってきたカードゲームをしたり、好きなことや趣味について話をしたりしました。いつの間にか女子全員の名前を覚えていました。ホテルの部屋では、お化けが出るかもと怖かったけれど、友達と話をしてなんとか寝ました。

２日目は自主研修でした。メルヘン館で絵本の中に入ったような気分になりました。昼ご飯は、場所が分からなくて大変でしたが、美味しいランチを「彼女の家」で食べて元気になりました。アミュプラザに向かうとき、どの電車に乗れば良いのか分からなくて困りましたが、親切な人に教えてもらいました。観覧車に乗って、お土産も買うことができました。宿泊は、霧島国際ホテルの大浴場での温泉はとても気持ちよくて、ご飯もやっぱり美味しかったです。

３日目は、霧島神宮や縄文の森、福山酢、水族館に行きました。とても楽しかったです。こんなに楽しい修学旅行になったのは、たくさんの人のおかげです。たくさんの思い出をありがとうございました。

【口之島小・中学校からのメッセージ】

栄養教諭　大村　ひさ子

寂しいなあ。６年前に十島村教育委員会勤務となりの最初に感じたことです。十島の子どもたちに会えるのは年ににぃ回、島を訪問した時だけです。子どもたちの元気な声が聞けないのは本当に寂しいです。また、調理室がすぐそばに無いことに戸惑いました。おいしくするための調理方法や、衛生管理について話し合うことが難しいと思ったからです。

しかし、学校から送られてくる喫食状況調査や学校のブログを参考に、調理員さんと直接電話で話しながら進めていくことで様々な工夫ができました。普段から調理員さんと連携して給食業務全般に関わってくださっている養護教諭の皆様の力が大きいことは言うまでもありません。

十島の給食は、手作り満載で大変だと思うのですが、調理員さんは「子供たちのためにがんばるよ。」といつもおっしゃいます。１人または２人で日々給食を作ってくださっている調理員さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

食に関する指導で島を訪問すると、子どもたちが元気な笑顔で出迎えてくれます。私のつたない授業にも真剣に向き合ってくれる子どもたちの姿に毎回感動します。朝食欠食や偏食、肥満や痩身など食に関する様々な問題は十島の子どもたちも同じです。十五の島立ちをする十島の子どもたちが、夢に向かってすすんでいくためにも、健康な食生活を送ってほしいと願います。微力ではありますが、十島の子どもたちのためにこれからも精一杯努めていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

学校訪問やＴＶ会議の際、いつも温かく迎えていただきありがとうございます。本年度も残り僅かですが、どうぞよろしくお願いいたします。